HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学会の歩み
Author(s)	宇野, 光雄
Citation	基督教学, 13, 3-5
Issue Date	1978-09-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46345
Type	other
File Information	13_3-5.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学会の歩み

宇野光雄

「創　設」

昭和三十七年六月十六日（土）北大農学部において、本学会の設立総会が開催された。まず、学会会則が定まり、会則にもとづて、会長（中川秀恭北大教授）、会計監査、理事、幹事等の役員が選出され、会費（年額三〇〇円、金額は昭和四十一年、五〇〇円、昭和四十四年、八〇〇円、昭和五〇年、一五〇〇円に改定された。）、事務局を北大文学部宗教学研究室に置くこと等が決定された。なお、総会には、当時、日本基督教学会会長石原謙氏、同専務理事山本和関東学院大教授が来賓として臨席された。（出席者四五名）

ついで、あらかじめ発起人会（同年四月十四日、北大文学部で開催された）で予定され、この総会で決定された行事が以下のように挙行されることになった。

設立記念公開講演会（同日午後、農学部四階講堂）

「教会再一致の問題について」

藤大、天使短大講師　浅井正三氏

「教会史のイデーと歴史神学の問題」

日本学士院会員　石原謙氏

会員懇親会（同日夜、北大クラーク会館）

研究発表会（十七日、北大文学部、なお、研究発表者、発表題目は、「基督教学」第一号に掲載）

以上の行事をもって北海道基督教学会は、名実共に学術団体として発足することとなったのである。思うに、これは「本道に学会を創設して、同学の士の交流を深め、斯学の発展を図りたい」という中川会長と、それに応えて発起人となり、全道各地から参加した会員の熱意と努力の結実であったということができる。

「日本基督教学会加入」

第二回大会（昭和三十八年六月二十九日、於北星学園大学）の総会において、本学会が日本基督教学会支部として同学会に一括加入することが決定され、以後北海道基督教学会の名称と日本基督教学会北海道支部の名称とが併用されることになった。

「基督教学」の発行

第三回大会（昭和三十九年六月二十七日、於藤学園大学）を経て、第四回大会（同四十年六月八日、於北海道学芸大学札幌分校）において、学会誌の発行が決議されることになった。学会の活動、会員の研究業績等が、学会誌を通して公表されることになり、本学会はこの学会誌「基督教学」の発行を通して、その発展、充実へと、一段と飛躍することとなった。「基督教学」第一号は昭和四十一年に発行され、その後、年一回の発行ながら途絶えることなく続けられ、昭和五十三年度発行の第一三号（本号）は、昭和四十七年会長を辞せられ、名誉会長となられた中川学長（国際基督教大学）の古希を祝す記念号として発行されることになった。

「学会活動」

第一回大会から第四回大会に至る学会活動（研究発表、行事）は「基督教学」第一号に、それ以後のものは、第二号以下の各号に掲載されている。ここでは、そのうち、特に、公開講演会を取りあげたいと思う。何故なら、公開講演会は、斯学の発展とその普及を図るという目的のために、本学会が創設の時決定した主要行事の一つであるからである。しかしここでは紙数の関係上、これまで行われた公開講演会の開催年度、開催地、並びに講演者名を挙げるに止めたい。（講演題目、日時、講師紹介等は、それぞれの年度の「基督教学」の記録を参照されたい。）

昭和三十八年、札幌市、T・L・ロマドカ氏（チェコスロバキア）同三十九年、札幌市、H・デュモリン氏（上智大学）、同四十年、旭川市、古田暁氏、中川秀恭氏、同四十一年、小樽市、橋本力氏、石津照璽氏（慶応大学）、同四十二年、札幌市、R・H・ベイントン氏（米国）、同四十三年、北見市、吉村新一郎氏、中川秀恭氏、同四十五年、江別市、宇野光雄氏、高坂直之氏、同四十八年、室蘭市、浅井正三氏、秋田稔氏、同四十九年、札幌市、関根正雄氏（東京都）、同五十一年、旭川市、山崎保興氏等々である。

以上項目をあげて、本学会の歩みを、簡単に見てきた。創立以来、今日まで本学会が順調に発展し続けてこられたのは、中川秀恭会長（昭和三十七年～同四十七年）秋田稔会長（同四十七年～同五十一年）浅井正三現会長、並びに理事の格段の尽力は勿論のことであるが、正会員、賛助会員の積極的な協力があったからである。特に、各会長のもとで、会計、通信、会誌の印刷等の煩瑣な業務を一切引受け、その任を果してきた各幹事の努力は、本学会の維持、発展の礎石を築いたものと言える。